

キャリア教育

令和4年度の取り組み

～カリキュラム・マネジメントの視点から～



棚倉町立社川小学校

- 1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化
- 2 「きく力」の育成に係る児童の変容
- 3 カリキュラム・マネジメントへの子どもへの参画
- 4 今後の取り組み

1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化



社川小学校

人間関係形成・
社会形成能力

自己理解・
自己管理能力

児童に身に付けさせたい資質・能力

課題対応能力

キャリア
プランニング能力

1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化



社川小学校

かかわる力

みつめる力

児童に身に付けさせたい資質・能力

いかす力

みとおす力

かかわる力

児童に身に付けさせたい資質・能力

「きく力」の育成

相手の話に興味をもって 『聞く』

相手の話を共感的に 『聴く』

相手の話を主体的に 『訊く』



人の話をもとに自分の意見を伝える力

かかわる力

児童に身に付けさせたい資質・能力

「きく力」の育成

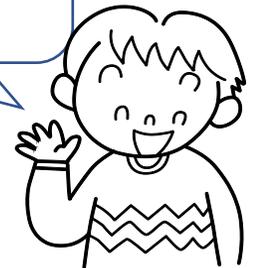
全教職員が「きく力」を意識した
教育活動を展開



児童も「きく力」を意識
→ 「きく力」を様々な活動で発揮

相手に分かりやすく
伝えられたよ

相手意識を持って
活動したよ



1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化



社川小学校

「きく力」を支える環境整備

評価を改善に生かす
学校運営委員会

新運動着のデザインは、子供達の話し合い
で決めたほうが「きく力」が育つのでは？

職業講話の講師は
私たちが連絡を
取って見ますか。



創立150周年行事も
子どもたち主体で
進められたらよいのでは？

↓
「きく力」の育成

1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化



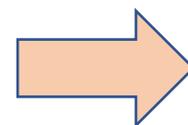
社川小学校

「きく力」を支える環境整備 地域との結びつき

6 学年 総合的な学習の時間



酪農クリエイター警察官の方から仕事で大切にしていることなどのお話を聞き、聞いたことを友達に発表する。



「きく力」の育成

1 身に付けさせたい資質・能力の重点化・焦点化



社川小学校

「きく力」を支える環境整備

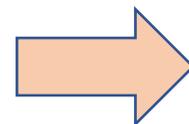
地域との結びつき

4 学年 総合的な学習の時間



地域の方を講師に神社の由来
や地域の歴史を聞く。

やまなしふれあいフェスティバルで発表



「きく力」の育成



2 「きく力」育成に係る児童の変容

事例 1 6学年児童Aの変容

Research

◇…児童 ○…教師

- ◇ 友達に優しく、思いやりがある。
- ◇ 自分の意見を言うことは少ない。

Vision

【児童AのVision】 ※キャリアパスポートより

- ◇ 学校をひっぱる。
- ◇ あいさつができる。

【担任のVision】

- 自ら判断し、正しい行動をとることができる。
- 周囲をリードすることができる。
- 自分の考えを伝えることができる。

○こんな自分になりたい！！

こんな自分になりたい (学習面) なににでも取り組む	そのためにすること あきらめず挑戦すること
(生活面) 人生すべてに努力する	スポーツ勉強をあきらめずにする すべて力を出せる
(家庭・地域) あいさつをすれちがう人たちに 声量をあげる	先生などに声量を上げてあいさつをとにかくする
(習い事) 資格 (好きなことなど) ソフトボール・ミニスポーツ	楽しいことなどをいっぱいやり 習い事は真げんにやる
こんな6年生にしたい な人でもできる	やったことのないことにも挑戦すること
最高学年としてがんばること (児童会活動・クラブ活動・学校行事・登下校など) 学校をひっぱる	計画を立ててみんなと協力すること

<6年生第1四半期キャリアパスポート>

2 「きく力」育成に係る児童の変容



社川小学校

事例 1 6学年児童Aの変容

◇…児童

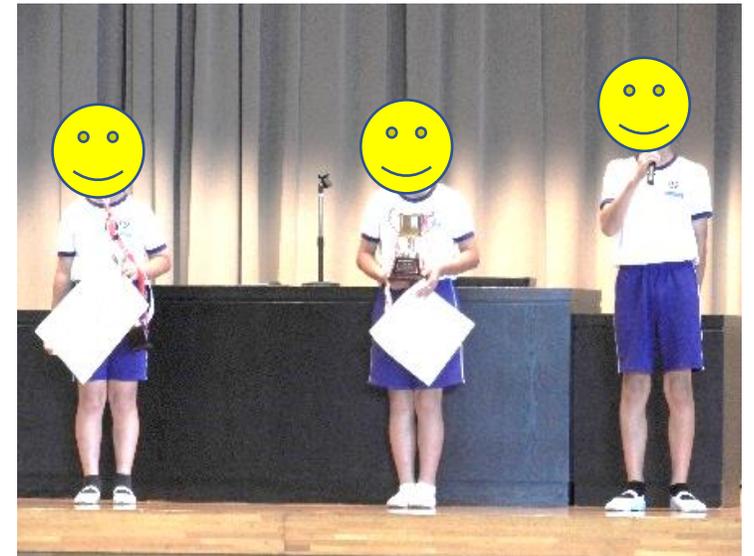
○…教師

Plan

- 前期に、縦割り清掃など他学年との交流の時間で班長などを務めるよう個別の懇談で勧める。
- 授業等で、積極的に自分の意見が伝えることができるように担任が声をかける。
- 子ども達が頑張ろうとしている姿を教職員で共有し、ほめポイントとして称賛する。

Do

- ◇ クラブ活動、清掃活動で班長を務めた。
- 自ら率先してリーダーの役職についたため、ほめポイントとして担任が本人の頑張りを称賛。
- 担任だけではなく、関係する職員が本人の頑張りを称賛。
- ◇ 道徳科「1年生のお世話係アフターユー」を活用し、低学年との関わり方について学んだ。
- 全校集会で自分の考えを伝える機会を意図的に設定した。



表彰後決意をする児童

2 「きく力」育成に係る児童の変容



社川小学校

事例1 6学年児童Aの変容

◇…児童

○…教師

Check

- ◇ 縦割り班の班長として、下級生への的確な指示を行うことができるようになった。
- ◇ リーダーとしての責任感が身に付いてきており、状況を判断しながら、下級生への的確な助言ができるようになった。
- ◇ 自ら率先して仕事を行う姿や他の模範となる礼儀正しい姿が見られるようになった。
- ◇ 困っている友達や下級生に優しい手を差し伸べる姿が見られるようになった。
- キャリアパスポートからも、リーダーとなって活躍したいという気持ちが読み取れる。

【要因】

- ◇ リーダーの役職を経験したことにより、自分に自信がついた。
- 本人の頑張りを「ほめポイント」として称賛したことにより自己肯定感が高まった。



2 「きく力」育成に係る児童の変容



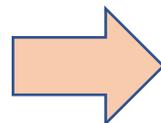
社川小学校

事例 1 6学年児童Aの変容

Check



<下級生に指示をする児童>



<下級生に助言をする児童>

【学年末の姿】
 2月のPTA総会の会場準備では、A児が積極的に声を掛け、先頭に立ってステージ下収納スペースから椅子出しをした。「みんなを引っ張る」「まわりを見て手伝いをする」という思いや願いを行動に表していた。「なりたい自分」を実現することができた一例である。

〇こんな自分になりたい！！

こんな自分になりたい	そのためにすること
(学習面) テストで全教科100点を取る	自主学習をいっぱいやる
(生活面) みんなと協力して生活	困まっている人とかの話を聞いたり手伝いなどをする
(家庭・地域) 近所の人とあいさつをする	通りすがった人にあいさつをする
(習い事・資格・好きなことなど) ソフトの選抜で県位になる 中学校の野球部メンバーになる	選抜の人と仲良くして努力する
こんな中学生になりたい まわりが見れる中学校 中心になれる中学生	まわりを見て先生の手伝いをする
最高学年としてがんばること (児童会活動・クラブ活動・学校行事・登下校など) 行事でみんなを引っ張る 行事の班の班長になる	班のリーダーになってみんなを引っ張る

〇なりたい自分にむかっているかな? (◎ ○ △)

<6年後期キャリアパスポート>

2 「きく力」育成に係る児童の変容



社川小学校

事例1 6学年児童Aの変容

Action

◇…児童 ○…教師

- 継続してリーダーを務めさせるようにする。
- 本児童の実態（現在の状況）について、教職員との間で共通理解を図るようにする。



「きく力」を高める指導を続けてきたため、自分の意見を積極的に伝える児童が増加した。

＜町交流会で班長になり
感想を発表する児童＞

＜町交流会の振り返り＞

外部講師による講演会
岡野先生の話聞き夢の先まで追いかけたくなり、今から将来のために日々の努力や勉強をしていきたいと思った

僕は、町交流学习でかかわる力が身につき将来のことについて詳しくしれ、これから中学校でも将来について追いかけて、新しい友達をいっぱい作っていききたいです



2 「きく力」育成に係る児童の変容

事例2 かかわる力を高めたいと考えている5学年児童Bの変容

Research

◇…児童 ○…教師

- ◇ やるべきことは確実に行う児童である。
- ◇ 他人の気持ちを理解できる優しい児童である。
- ◇ 口数が少なく、自分を表現することが少ない児童である。
- ◇ 児童数が17名であり、幼稚園から人間関係が固定的な学級集団である。

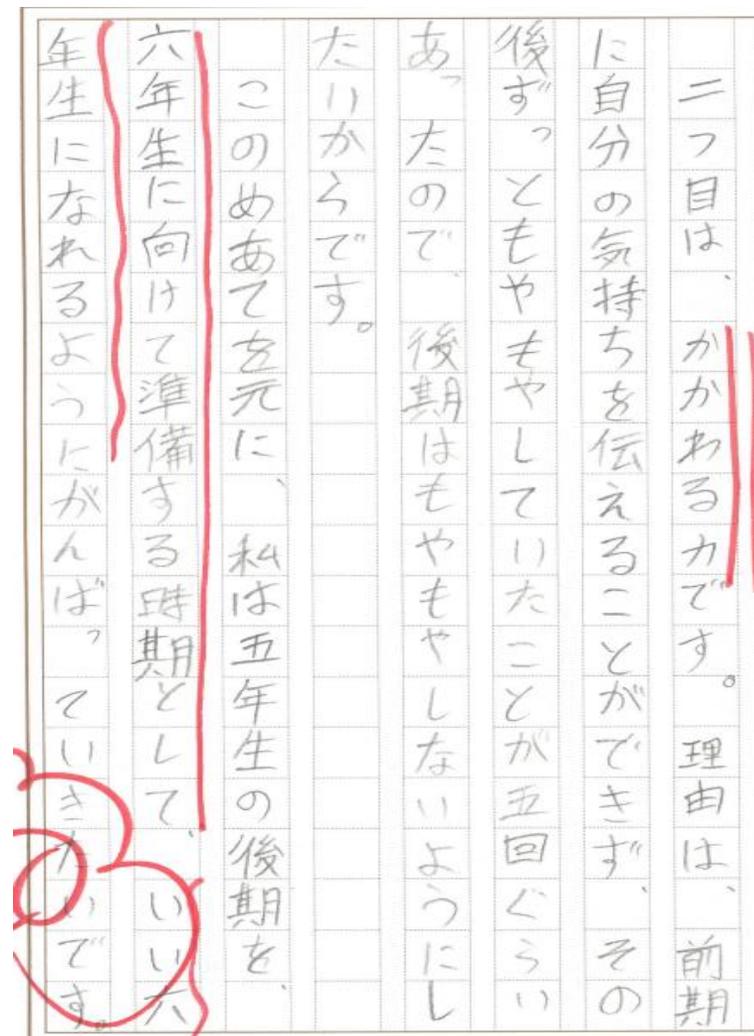
Vision

【児童AのVision】 ※作文より

- ◇ かかわる力を高めたい。

【担任のVision】

- 固定化されている学級の人間関係を改善する。
- 本児童が活躍できる場を見つける。



<作文「6年生へ向けて準備する時期」>

2 「きく力」育成に係る児童の変容



事例2 かかわる力を高めたいと考えている5学年児童Bの変容

◇…児童

○…教師

Plan

【次のような取り組みを通し、本児童の自己肯定感を高め自尊感情を高める】

- 担任が児童一人一人の「よさ」を学級で伝え、他の児童の見方を変えるようにする。
- 体験活動（米作り、3泊4日の宿泊学習「セカンドスクール」※1）を重要視し、個々の児童がもっているよさを発揮できるようにする。
- ◇ 児童の話合い活動を重視するため、達成感を高めるため、体験活動や学習発表会等の内容については児童が決定する。

Do

- グループを結成する場合は、都度メンバーを入れ替えて、固定的なメンバーにならないよう配慮した。
- ◇ セカンドスクールを実施した。
- ◇ 学習発表会の内容等については、児童らが話し合いを行い決定した。
- ◇ 米作りに係る収穫祭を実施した。



<やまフェス話し合い>

2 「きく力」育成に係る児童の変容



社川小学校

事例2 かかわる力を高めたいと考えている5学年児童Bの変容

Check

◇…児童

○…教師

- ◇ セカンドスクールをきっかけに、自分の考えや意見を発表するようになった。収穫祭のおにぎり作りにおいても、班の中心的な存在として活躍した。
- ◇ 学習発表会に向けての話し合い活動において、肯定的な意見を積極的に発表するようになった。
- ◇ 6年生を送る会の実行委員に自ら立候補した。
- Q-Uテスト6月と11月の比較。
- 学校評価アンケートの結果分析。

【要因】

- ◇ 料理を得意としているよさを周囲に認めてもらい、自分に自信がついた。



2 「きく力」育成に係る児童の変容



社川小学校

事例2 かかわる力を高めたいと考えている5学年児童Bの変容

Check

<Q-Uテスト 「ソーシャルスキル」>

6月実施と11月実施の比較

- ① 配慮：+0ポイント
- ② かかわり：+0ポイント

<11月実施 児童アンケート>

1 ^{がっこう}学校は、^{たの}楽しいですか。・・・理由 ^{りゆう}(みんなと話ることができているから)

とても楽しい 楽しい ふつう あまり楽しくない 楽しくない

<セカンドスクール・野外炊飯>

料理を得意としていることから、セカンドスクールの野外炊事において、調理の仕方を友達に教えるなど力を発揮した。

周囲の友達は本児童の新たな一面を知ることができた。



2 「きく力」育成に係る児童の変容



事例2 かかわる力を高めたいと考えている5学年児童Bの変容

Action

◇…児童 ○…教師

- 本児童の活躍の場が増えたことで自己肯定感が高まった。
- ◇ 自己肯定感を高めたことで、自信をもって発言するようになってきた。
- 本児童のよさの取り上げをもう少し多くすればよかった。そのために、担任自身の児童を見る目を高める。

「体験活動で子供達の活躍の場を広げること」
「行事等の企画を児童が行うこと」
が大切である

<脱穀>



<町内ホッケー大会>



3 カリキュラム・マネジメントへの子どもへの参画



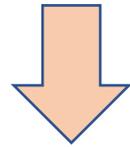
社川小学校

新運動着デザイン決定プロジェクト

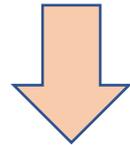
令和5年度より新半袖運動着導入

保護者の声「汚れが目立ちにくく、乾きやすいものに替えてほしい」

職員会議で共有



PTA本部役員会・学校運営協議会で話題提起



子ども達の声を反映した方がよいのでは
子ども主体で進めた方がよいのでは



3 カリキュラム・マネジメントへの子どもへの参画



社川小学校

新運動着デザイン決定プロジェクト

代表委員会・集会委員会（3～6年生）の参画



プリントは前？後ろ？
ロゴのデザインは？



それぞれのデザインの良さは？
どうやって決める？

新運動着デザイン決定プロジェクト

デザインのプレゼン→アンケート実施→発表

◇◆◇新運動着アンケート◇◆◇

（ ）年 名前（ ）

- 1 マークは、まえ・うしろのどちらに入っているほうがよいですか。どちらかに○をつけてください。



- 2 まえ（むね）にマークが入るとしたら、どのデザインがよいですか。1つに○をつけてください。



- 3 うしろにマークが入るとしたら、どのデザインがよいですか。1つに○をつけてください。



◇◆◇新運動着アンケート2◇◆◇

（ ）年 名前（ ）

1回目のアンケートの結果、マークは、「まえ」につけることになりました。しかし、デザインAとEがほぼ同じ数だったため、もう一度アンケートをとります。

どちらか1つに○をつけてください。



代表委員会・集会委員会の話し合い

「どのように発表する？」
「役割分担は？」



新運動着デザイン決定プロジェクト

新運動着デザインプレゼン

選択する楽しさ

自分たちが決めたデザインを着用できる期待



プレゼンを動画で記録



オンラインでプレゼン

わくわくが止まらない2年生

新運動着デザイン決定プロジェクト

デザイン発表

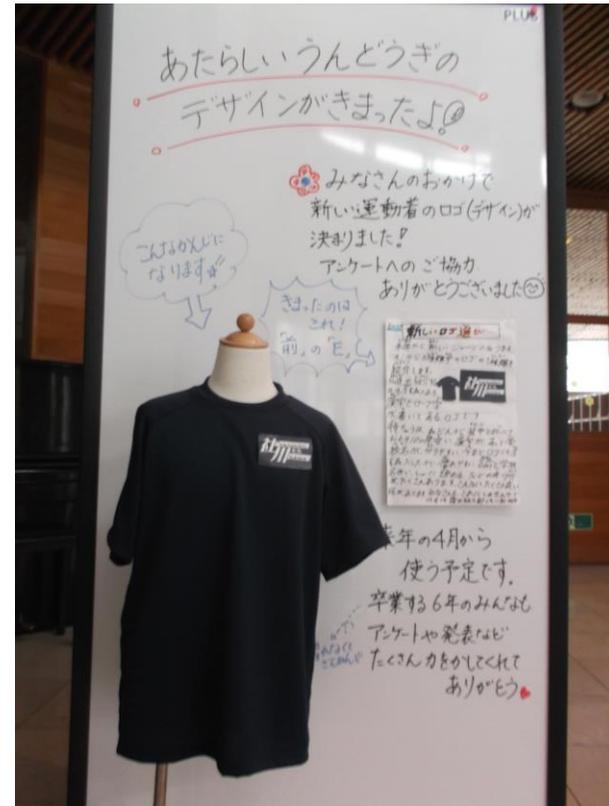


効果音を付けて
サプライズ感を演出



このデザインに決定！

子どもの言葉で伝える
新デザインへの親近感





新運動着デザイン決定プロジェクト

児童の変容

◇ 実行委員の高学年児童は、相手を思いやりながら話し合いを進め、下級生に適切にアドバイスをしたりして活動をリードすることができた。5年生のA児は、学校全体を動かすという意識を持ち、下級生の手本になりたいという意欲を持つことができるようになった。

5年生の実行委員B児は、行事を企画・運営する力を身に付け、一日入学の新一年生との交流学习でリーダーシップを発揮した。B児は、一日入学の実行委員長を務め、当日の進行だけでなくネームカードを作りたい、準備の時間がもっと欲しい等、自分たちの活動を自分たちの手でつくり上げるための活動をリードした。

<5年生の実行委員A児のキャリアパスポートと振り返りシート>

あいさつではろう下で会った人にあいさつができた。
みんなと仲良く過ごして声をかけ合いながら生活することができた。
六年生になったら学校全体を見なさいけないから六年生になる前から責任、自覚を持って過ごせるようになる

こんな6年生になりたい
低学年のお手本になりせきに人を持つ6年生
高学年としてがんばること
学校全体を見て考えて行動する



新運動着デザイン決定プロジェクト

児童の変容

- ◇ 6年C児は実行委員会の記録係を務め、話し合い全体を支えた。またD児は話し合いにおいて積極的に意見を出し、下級生の手本となった。この2名は、2月の児童会委員会の引継ぎで、「後輩を支える」「尊敬される先輩になる」「下級生をサポートできてよかった」と最高学年の自覚と責任感をさらに高めることができた。

最高学年としてがんばること

(児童会活動・クラブ活動・学校行事・登下校など)

うはいそえる

せんせい、がんばるようなせんせいになる!!

きょうの一日 今日、委員会(金)の引継ぎとして5年生のサポートを
しました。初めてだったけどうまくできてよかったです。
5年生のサポート、よかった
お願いはす!!

柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

「わたしたちの発表」

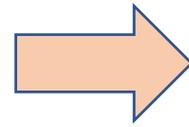
クラスのみん
なと協力したい

劇がしたい

ダンス

総合の発表

「思い」や「願い」



発表内容の決定

話し合い（合意形成）

成長した姿を
見せたい

児童の思いを教師が引き出す



柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

発表内容の決定

教師の働きかけと調整

「わたしたちの発表」



練習

もっと笑って
もらうには

こんな道具が
あったらいいな

もっと大きな声で

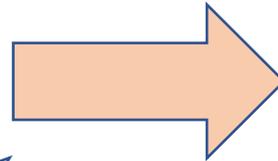
順番を変えて
みよう

もっと練習したい！

- ・ ICTを自在に操作→動画で自分たちの発表を確認
- ・ 他学年からの刺激「やらされ感ゼロ」

柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

練習



発表

教師の助言による
計画の変更と内容の改善

緊張する

失敗しても一生
懸命やるよ

お客さんが
反応してくれた



満足感・達成感

「わたしたちの発表」

柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」



「わたしたちの発表」本番 ～4年生～



今日はお休みの子がいる…「私が代わりにやります！」

柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

満足感・達成感

ダンスが
すごかった

お客さんに喜んで
もらえてうれしかった

クイズが楽し
かった

ふり返り

失敗しても
最後までがんばった。

5年生はお笑い
を入れて工夫し
ていたね

6年生の発表が
おもしろかった！

休んだ友達のために、
サプライズ！みんな
がそろったら発表会
第2弾をやろう！

次のステージへの
思いと憧れ



クラスの一休感

柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

児童の変容

◇ 「友達のために」という相手を思いやる気持ちや協力して目標達成に向かおうとする気持ちを活動に生かせるようになり、学級の団結力が高まった。E児は、やまなしふれあいフェスティバル直後の振り返りで「みんなで協力してやまフェスを大成功させてうれしい」と協力したこと喜びを感じ取っていた。その1か月後のキャリアパスポートでは、「クラスで困っている子を助けられたから、高学年として他学年の人を助ける」と記しており、高学年への進級に向けて考え方がさらに成長している。

やまなしふれあいフェスティバル をふりかえろう

① がんばったことやできたことはなんですか。

声を大きく、ハフハフキープした。

② 楽しかったことやうれしかったことはなんですか。

みんなで協力しながら、山フェスを大成功させたこと。

③ これからがんばりたいことはなんですか。

1人1人が協力し、大きなはくしゅうをもらえるよう、考えること。



こんな高学年になりたい

クラスで困っている子がいたら、助けられたいから、高学年として、他学年の人を助ける

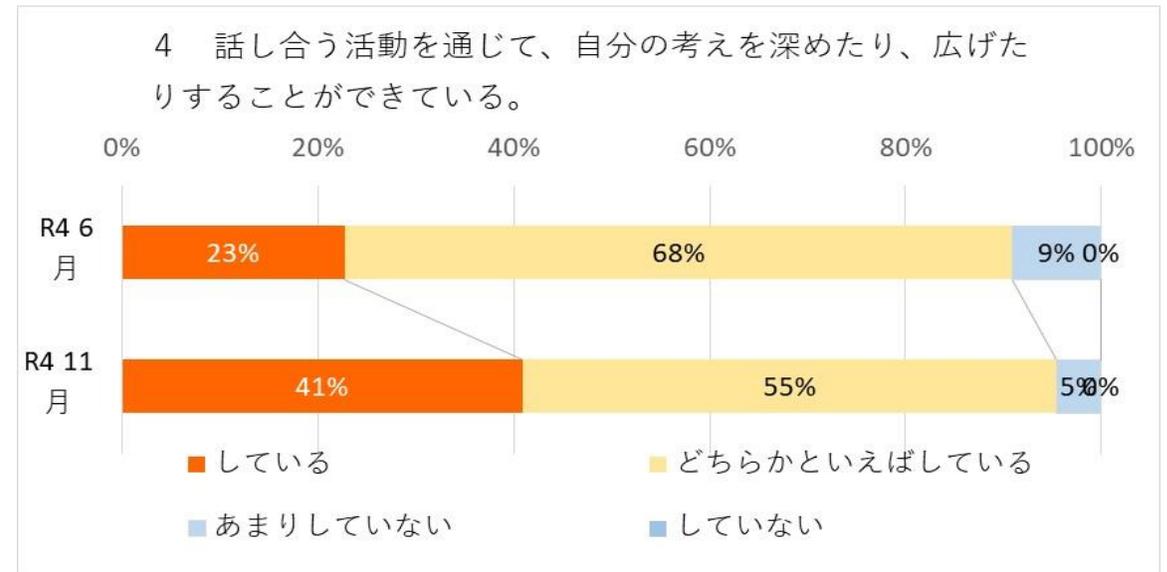


柱となる行事「やまなしふれあいフェスティバル」

児童の変容

- ◇ 学級全体では、他教科においても「もっとよいものにしたい」と自分で考え工夫改善し、よりよいものを追究できるようになった。
- ◇ 合意形成プロセスの経験により、多様な考えがあることに気づき、自分と違う考えであっても受け入れられるようになった。様々な授業の話し合いでもこの経験が生かされ、話し合いを通して自分の考えを深めることができるようになった。

＜キャリア教育意識調査・4年＞



強い肯定「している」

6月 23%

11月 41%

+18ポイント

生活科 「砂遊び」～幼小連携～

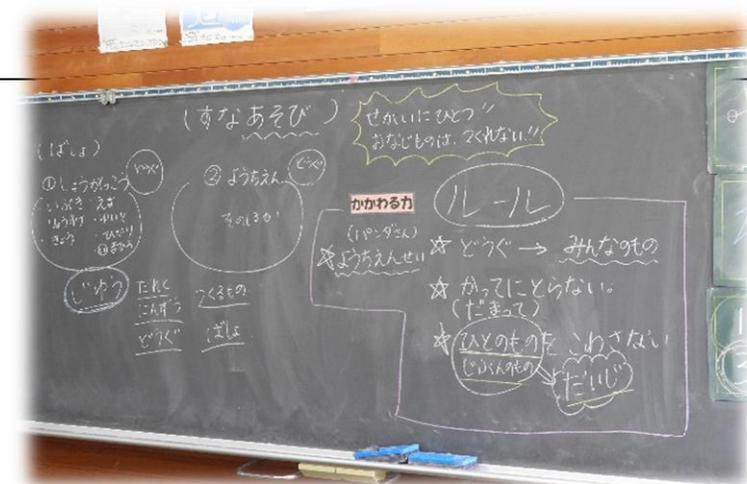
1 年担任と年長担任の打合せ

担任同士が事前に打ち合わせを重ね、子供達の実態と活動を通して身に付けさせたい資質能力は何かを視点を、活動の内容等を決めていった。

低学年から「自分で決める」という経験をさせることを重視した活動になるよう工夫することとした。

遊びの計画

生活科の授業で子供達とともに砂遊びの計画を立て、活動の見通しを持てるようにした。1年生は、昨年、下級生の立場で現在の2年生と一緒に砂遊びを経験しており、それを想起しながら話し合いをしていた。



生活科 「砂遊び」～幼小連携～

砂遊び 1回目



＜道具の使い方を工夫する児童・園児＞



＜遊びを広げる活動を楽しむ児童・園児＞

楽しく遊んだ。
しかし・・・年長児の声
「1年生とは遊んでいないよ」

生活科 「砂遊び」～幼小連携～

2回目の砂遊びへ

もっと年長さんと遊んであげたいな。



自分たちから声をかけよう。

1年生：何作りたい？

年長児：お城！



いっしょにお水をはこんであげるね。



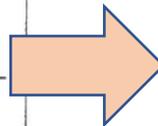
生活科 「砂遊び」～幼小連携～

児童の変容

- ◇ F児は、図工の授業の時、何を描いてよいのか、何を作ったらよいかかなかなか決められない児童だった。後期のめあては自分で「えがができるようにする」に決めた。第3四半期の振り返りでは、「えがじょうずにできた。（コンクールにえらばれた）」と自分で立てためあてを達成できたことについて記している。砂遊びをきっかけに自分で「決める」経験を積んできたことで、様々な場面で自己決定ができるようになり、自信をつけている。

○こんなじぶんになりたい！！

がくしゅう
えがができるようにするめあてはわか
りたい。えががきれいになりたい



<だい3しはんき>

(学しゅう) えががじょうずにできた。コンクールにえ
らばれた。



生活科 「砂遊び」～幼小連携～

児童の変容

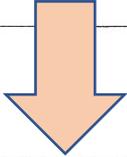
◇ G児は、係活動で黒板係となり、「しっかりきれいにしたい」とめあてを立てた。第3四半期の終わりには、「こくばんをまいにちわすれないでじぶんでできた」と具体的な振り返りをしている。毎日忘れなかったことや自分でできたことが自信となり、先生を頼らなくても自分で考えて行動できることが増えている。

○こんなじぶんになりたい!! *かん字をもとめたい*

がくしゅう *もっとはやくみんなのお手本*
にちりたい。

せいかつ (おそうじやかかりなど) *こくばんをまいにちわすれないで!*

おうちでがんばること (おてつだい・ならいごと) *じぶんでしゅくだいをする*



<だい3しはんき>

(学しゅう) *みんなのお手本 になれた。*

(生かつ) *こくばんをまいにちわすれないで!*

(おうち) *じぶんでしゅくだいをして!*

○だい3しはんきのあなたへ

先生からあさのマラソン300(わ)たい おめでとう!!
 毎日早くからがんばったからだね。つかうことはとて
 ますしいことだね。それがしゅくだいなのだから
 はすいすい。クラスだけでなく、学校みんなのお手本です。
 300(わ)うをこえてないうまははれるのよ。とてもたのみです。
 かわりごとやしくたいたい。じぶんのやがきことば、しかり
 やれぬか。いいことだね。まじりにいれる
 こころをたせろ。これからはがんばらう!!

おうちの人から
 学校でやらはるのいいことだね。がんばるのよ。しゅくだい
 のよ。してはる。問題を解いてからやるという
 ことが身に付いていると思う。マラソン300(わ)う!!
 がんばるのよ。しゅくだい。とてもたのみです。
 友達とも仲よく楽しくやれよう。がんばらう!!

生活科 「砂遊び」～幼小連携～

次年度に向けて

- 令和5年度指導の重点の一つに幼小連携を掲げた。
- 2月に幼小で次年度の幼小連携カリキュラムについて検討する会を実施する予定である。幼児期に親しんできた砂遊びなどの活動を取り入れたり安心して学べる学習環境を整えたりなど、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を生かしてスタートカリキュラムを検討していきたい。



成果と課題

評価を改善に生かし、子どもが参画する カリキュラム・マネジメントを推進していく

- 焦点化された資質・能力の育成を目指したことで、児童も教職員も共通理解に立って取り組むことができた。これからの社会を生き抜く中で自分の考えや意見を伝えていくことは必要であり、「きく力」の育成を意識した教育活動は有用であると実感した。
- 学校、学年、学級、そして個人（児童一人一人）のRVPDCAサイクルによって、それぞれのサイクルがうまくかみ合い、児童の資質・能力の高まりが見られた。四半期ごとや、活動ごとの振り返りは特に有効であった。
- 今後は、これまでの実践を踏まえ、小学校だけでなく、幼小や小中の連携に視野を広げ、児童の資質・能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントについて研究を深めていきたい。

